

「社会にかかわる」子どもを育てる授業づくり①

小・中学校の『学習指導要領解説 社会編』(i) 改善の基本方針及び(ii) 改善の具体的な事項の中に、次の記述があります。

(i) 改善の基本方針

公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成することを重視する方向で改善を図る。

(ii) 改善の具体的な事項

(小学校)

よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うことを重視

(中学校)

よりよい社会の形成に参画する資質や能力を育成することを重視

(※下線は筆者)

このように、これから社会科においては、**社会的事象に対する自分なりの見方や考え方をもち、それを表現しながら社会への参画を考えていこうとする**、「社会にかかわる」子どもを育てることが求められています。

そこで、「社会にかかわる」子どもを育てる授業づくりについて、数回に渡りシリーズで紹介していきます。

今回は、学校訪問で参観した授業の中から、参考となる授業実践を紹介します。

福島県1泊2日の観光パンフレットを作ろう！

～ 小学校4年「わたしたちの県」～

〈授業実践の概要〉

1 福島県のよさをPRする観光ツアーパンフレットを作る。

福島県全体の地形やおもな産業、交通網、人々の生活等の様子、主な都市の位置等について調べたことをもとに、福島県の「観光資源」を自分なりに見いだして、「浜・中・会津」を横断する1泊2日の観光ツアーを考え、パンフレットを作る。



2 できあがったパンフレットを観光案内所等に置いてもらう。

パンフレットを観光案内所等に置いてもらい、福島県の特色をPRする。



この実践のよさは、県の様子について、単に調べて、知るだけにとどまらずに、学びの成果である観光パンフレットを実際に観光案内所等に置いてもらい、「**自分たちの県の特色をPRする**」という**地域社会へのかかわり**をもたせているところです。このような実践が、「**よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎**」を培うことにつながります。

単元のまとめとして、子どもたちがツアーガイドになったつもりで、ツアーノート等をお互いに紹介する言語活動を取り入れてもおもしろいですね！